

みんなで21世紀の未来をひらく 教育のつどい

教育研究全国集会2017 in 岡山

ダイジェスト

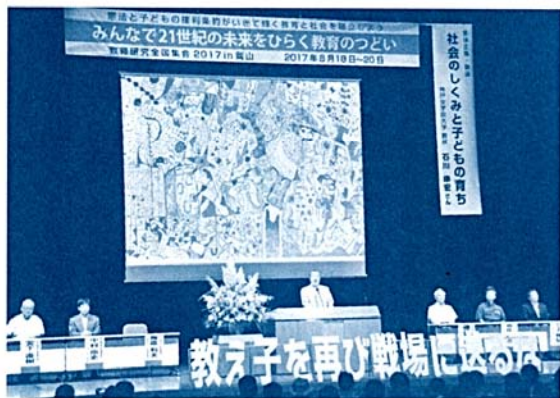
「みんなで21世紀の未来をひらく教育のつどい—教育研究全国集会2017 in 岡山」は、8月18日～20日、岡山県岡山市内を会場に開催され、3日間でのべ5000人の教職員、保護者、市民が参加しました。「憲法と子どもの権利条約がいき輝く教育と社会を確立しよう」をメインテーマに、開会全体集会、7つの教育フォーラムと30の分科会で熱い討論と交流がおこなわれました。



開会全体集会のオープニングは、地元岡山の美作大学沖繩県人会によるエイサーでした。学生5人が沖繩の衣装で力強く舞い踊り、最後は会場全体でカチャーシーを踊りました。

開会全体集会では、実行委員会代表委員の梅原利夫さん（民主教育研究所代表運営委員、和光大学教授）、現地実行委員長の磯部作さん（放送大学客員教授、元日本福祉大学教授）のあいさつに続き、実行委員会事務局長の宮下直樹さんが、「平和を守ろう 憲法を語ろう」「貧困・格差の拡大から、子どもたちを守ろう」「競争よりも学ぶよろこびを、実態から出発した教育課程をつくろう」「子どもたちの健やかな成長を育む、学校・家庭・地域づくりをすすめよう」など、討論のよびかけをおこないました。

全体企画では、石川康宏さん（神戸女学院大学教授）が「社会のしくみと子どもの育ち」というテーマで講演しました。安倍政権が何を目的に教育への介入をすすめるのかを解き明かしながら、ゼミの学生たちととりくんだ「慰安婦問題」や「原発事故問題」で若い世代がどう感じ、何を学んだか、そして、学びを通して、



彼らが目を見張る成長ぶりを見せたことなどを紹介しました。参加者から、「具体的でわかりやすかった」、「「現場7割・社会3割」という言葉に自分の働き方を考えさせられた」などの感想が寄せられました。（2・3頁に講

演の要旨を掲載）

引き続きおこなわれた現地企画「このままでいいの？ 岡山の教育」では、岡山がかつて朝日訴訟やハルセン病に悩んでいた人権をめぐるたたかいを繰り広げてきたこと、

「児童福祉の父」と呼ばれた石井十次を生んだ土地であることなど、人権尊重の精神に貫かれた県民の心がしっかりと根づいていることをスライドで紹介しました。

後半は、岡山で活躍する視覚障害者のシンガー・原田義雄さんのやさしく力強い歌声でした。フィナーレは参加者全員による「みんなのうた」。会場全体にあたたかく深い感動が広がりました。

教育フォーラムでは、改訂学習指導要領、高校における特別支援教育のあり方、統廃合・小中一貫校問題、被災地の現状と課題など多彩なテーマで、憲法と子どもの権利条約にもとづいて、今日の「教育改革」攻撃にどう立ち向かうのかを考え学び合いました。

2日間にわたる分科会で報告されたレポートの総数は377本で、昨年引き続き青年の実践レポートが増えています。一人ひとりの子どもに寄り添い、粘り強くとりくんだ実践や職場の同僚に支えられとりくんだ青年の実践が数多く報告されたことが特徴的でした。

